

児童一人一人が自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集したり、収集した情報を読み取ったり、読み取った情報を分類・整理してまとめたりする学習活動を構成していくことが求められています。学び方や調べ方を大切に、児童の主体的な学習を実現しましょう。

3年：身近な地域や市区町村の様子

課題把握

課題追究

課題解決

新たな課題

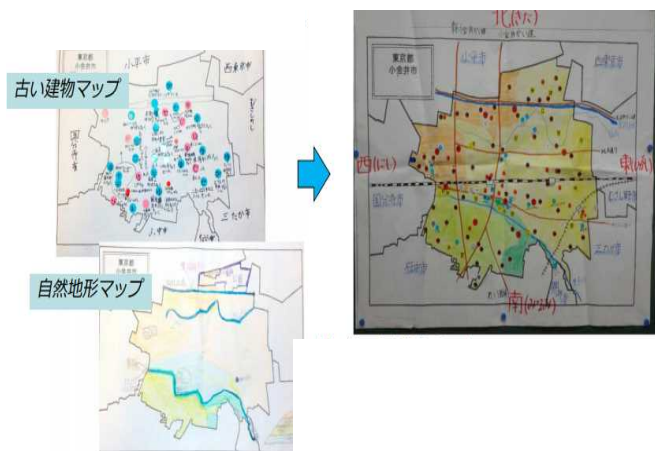
1 見学により、問いの解決に必要な情報を収集する課題追究場面（県版参照）



これまではメモや写真をとるなどの活動が多かったところを、例えば、1人1台端末の録画機能を使って映像で記録をしていきます。それにより、子供たちはメモをとることに追われることなく、課題解決のためのインタビュー(取材)に専念することができ、早く効果的な情報収集が可能になります。

社会科,地理歴史科,公民科の指導におけるICTの活用について（文部科学省より）

2 作成した地図をICTを活用して1つにまとめ、関連付けて考える課題解決場面



それぞれ自らの課題について調べた「地形」「土地利用」「交通」「公共施設」などの地図を1人1台端末上で一つずつ重ねて一枚にすることができます。

出来上がった地図を基に、市の様子について話し合う活動では、地図が重なっているのだから子供たちは事実を関連付けて、市の様子を語っていくことができます。

社会科,地理歴史科,公民科の指導におけるICTの活用について（文部科学省より）

参考資料



教育の情報化に関する
手引き



社会科におけるICT
の活用について

学習指導要領の改訂によって、「資料等の活用」が配慮事項として示されることとなりました。情報活用能力の育成やICT機器の活用を図る学習活動の充実が求められています。

地理的分野における活用例

課題把握

課題追究

課題解決

新たな課題

1 情報を収集する課題追究場面(課題解決に必要な情報を収集する場面)

- ・生徒自身が自分の課題解決のために必要な情報を得ることができます。
- ・調査活動等で収集した情報を、必要に応じて何度も確認したり、複数で共有したりすることが容易にできます。

2 情報を読み取る課題追究場面(地理的な見方・考え方に沿って読み取る場面)

- ・いくつかのデータを一つの画面で見ることができるので、それらを比較・関連付けて読み取りやすくなります。
- ・位置や分布の広がり、移動や変化の動向等に着目した資料の読み取りが生徒の手元で可能となります。それにより、生徒自身が目的に応じて必要なデータを拡大したり、重ねたりできます。

3 情報をまとめる課題解決場面(読み取った情報を課題解決に向けてまとめる場面)

- ・読み取った情報や収集した統計データを、生徒自身がグラフや表などに加工してまとめることができます。
- ・プレゼンテーションソフトを活用すれば、追究場面で得た情報を効果的に活用して発表できます。

参考資料



教育の情報化に関する手引き



社会科におけるICTの活用について



e-Stat(県版参照)



RESAS(県版参照)



地理院地図(県版参照)

第3学年 身近な地域や市区町村の様子

単元の学習課題 「わたしたちのまちはどんな様子なのだろう。」

調査活動により収集した情報を、繰り返し吟味する。

撮影(取材)してきた写真や映像を、児童一人一人の解決したい課題や進捗状況に応じて、繰り返し確認し、吟味できるので、根拠や理由を明確にして考えたり、判断したりすることができる。



茶畑は山の斜面に多くあるって聞いたような気がするんだけど、どうだったかなあ。
お茶農家さんへ見学に行った時のインタビュー動画で確認しよう。